

5 家庭で育みたい大切なこと

(6) みんなが笑顔で過ごすために

◇ 早めの気づきがポイントです

こどもが楽しく生き生きと生活を送るためには、得意なことや苦手なことに気づき、その特性をよく理解しながら、適切に支援することが大切です。そのためには、家庭での早めの気づきが大切になります。

☆ 気づきのポイント ☆

〔学習の場面〕

- 忘れ物が多い。
- 片付けが苦手である。
- 着席することが苦手で、離席が多い。
- 計算はできるが、文章を読むことが難しい。
- 動きがぎこちない。

〔生活の場面〕

- 思ったことを、そのまま言葉にしてしまう。
- 注意されても、同じ事を繰り返してしまう。
- こだわりがあることから、スムーズに行動することが難しい。

〔遊びの場面〕

- 一人で遊ぶことが多い。
 - ・ 自分の思いを伝えることが苦手である。
- 友達とすぐにけんかになってしまう。
 - ・ 順番を待つことが難しい。
 - ・ 友達を持ち物を欲しがる。
 - ・ 冗談が通じない。

◇ 多様な学びの場があります

学びの場としては、小・中学校等における通常の学級や通級指導教室、特別支援学級及び特別支援学校（盲学校、聾学校、特別支援学校）があります。通級指導教室や特別支援学級、特別支援学校では、少人数での学級編制や特別の教育課程を編成することなどにより、適切に指導及び支援を実施しています。



全ての子供たちが
笑顔で学校生活を送るために
《令和3年3月》

←ここをチェック！

入学前や在学中に、学習面や生活面で不安を感じたら、どうしたらいいの？



多様な学びの場って、最近よく聞くけど、具体的にはどのようなことをしているの？

教えて！Q&A



通級指導教室や特別支援学級に通う場合は、障害の診断が必要なのではないでしょうか？

通級指導教室や特別支援学級の種類として、法令に基づき「知的障害」や「自閉症・情緒障害」、「言語障害」などがありますが、いずれの教室や学級に通う場合でも、その対象の障害の診断が必ずしも必要というわけではありません。

お子さんの実態に応じて、どのような教育を受けることが、お子さんにとってよりよいことなのかを考え、適切な学びの場を選択することが大切です。



◇ 支援が必要な子どもたちへの関わり方

誰でも、得意なことがあれば、苦手なこともあり、一人一人ちがいます。そのため、一人一人の特徴に応じて支援していくことが大切です。

愛情のメッセージを送りましょう

できたことをたくさんほめて、「私はあなたがかわいくて、誰よりも愛している!」というメッセージを絶えず送り続けることがとても大切です。そうすることで、こどもに自信をもたせ、自己存在感が育まれます。



視覚的な情報を提示して説明しましょう

言葉で言われるよりも、目で見て分かる情報があると、自分がすべきことが分かり、見通しをもって行動することができます。こどもが理解している言葉を使って、写真や絵カードを添えて説明するとよいでしょう。



得意なことをたくさん増やしましょう

不得意なことばかり目を向けるのではなく、得意なことを伸ばすように心掛けることが大切です。得意なことが伸びてくると、やればできるという気持ち育ち、本人の自信にもなります。

◇ 一人で悩まないで！相談窓口

相談機関名	電話番号	相談時間など	相談内容
県総合教育センター 特別支援教育研修課	099-294-2820	月～金 8:30～17:00	障害児や学習・行動面の つまづきに関すること
こども総合療育センター	099-265-2400	月～金 8:30～17:00	こどもの心身の発達に関 すること
障害者くらし安心相談窓口 (県庁障害福祉課) (大隅地域振興局) (大島支庁)	099-286-5110 0994-52-2108 0997-57-7222	月～金 9:00～16:00	障害を理由とする差別に 関すること
各市町村障害福祉課等	各市町村の障害福祉課等へお問い合わせください。(※各市町村によって課の名称が異なります)		療育(児童発達支援, 放課後等デイサービスなど)の利用に関すること

教えて！Q&A



こどもの可能性や能力を伸ばすためにどのようなことが大切ですか？

- 1 日常生活や学習をする上で、どんなことに困難があるかを整理しましょう。
- 2 その困難さに対して、どのような支援がどの程度必要かを考えましょう。
- 3 「好きな活動や遊び、意図的に取り組んでいることは何か？」を具体的にあげましょう。
- 4 気持ちを表現することや集団の中の他者との関わりの様子を観察しましょう。

〔「就学相談・支援の手引き」鹿児島県教育委員会より〕

